

変体仮名を学ぶ

締切り 七月二十五日(必着)



※高野切第三種・粘葉本和漢朗詠集などから集字しました。
※左下の活字は字母を示しています。

【お願い】 出品数が大幅に増加しました。事務処理の正確を期すため、会員番号・成績もご記入くださるようお願いいたします。

◎平安時代以来、一音についてたくさん
の仮名が使用されてきましたが、
明治三十三年(一九〇〇)、小学校令
により一字一音に整理、統一されま
した。この仮名を平仮名とよび、そ
れ以外の仮名を変体仮名とよび区別
しています。

◎仮名を習う場合、まず一字一字をしっ
かり習熟することが大切です。初心
の方はもちろん、ベテランの方も今
一度初心に返って仮名を学びましょ
う。

◎作品の出し方

上掲の図版で示した三行を書いて下
さい。

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二

mm) 程度の紙に書いて下さい。

※こどものひろば四行用紙も可。

※用具は自由(黒色に限る)

▼毛筆部 かな用半紙に臨書して下さ
い。(拡大臨書可)

▼出品制限の対象とはしませんので、
どなたでも出品できますが、硬・毛
のどちらか一方に限ります。

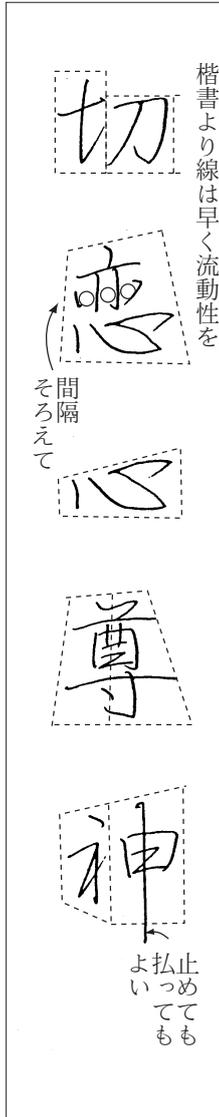
▼支部名と氏名を必ず記入のこと。

▼優秀作品数点を、写真版として成績
表の後ろに掲載しますが、成績表で
の順位発表はしません。

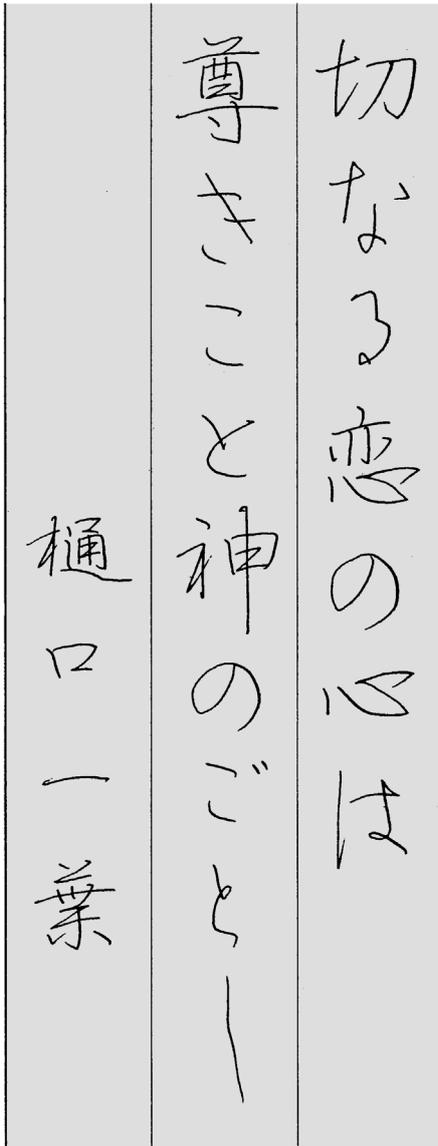
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

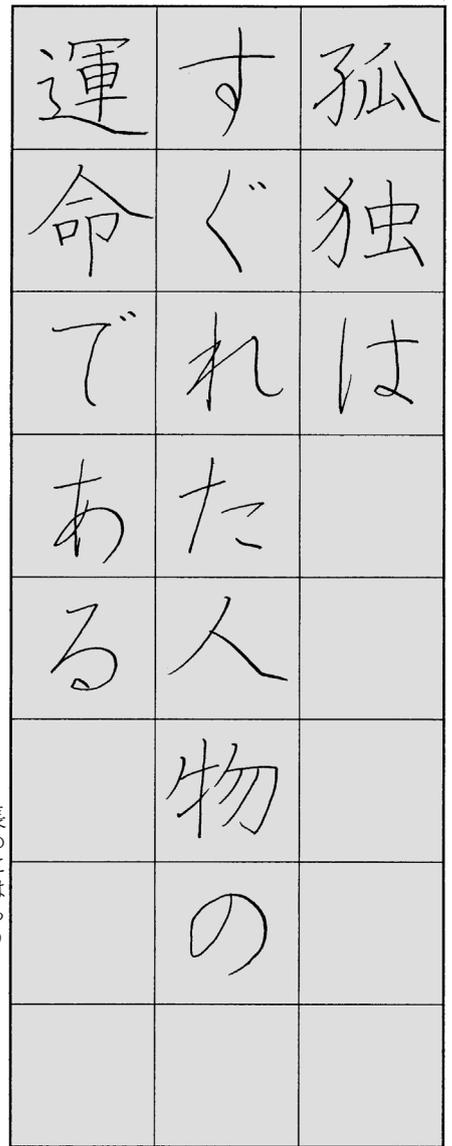
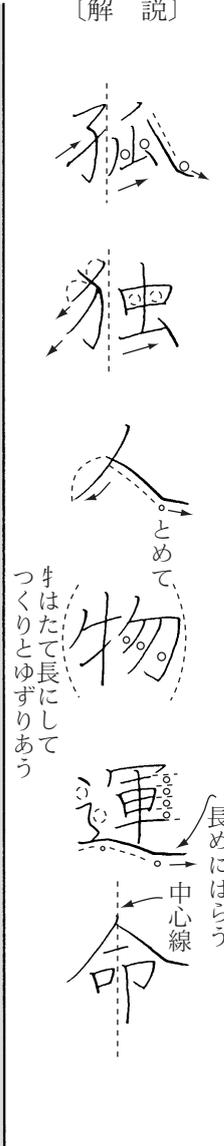


おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

- ◆8月課題予告(行草または草書)
精神の一番美しい
特権のひとつは
老いて尊敬されること
- ▼教範・書範Ⅱ行書
- ▼師範Ⅱ楷書

★切なる：(書体Ⅱ行書)
樋口一葉(一九〇一〜一九二六)
明治時代の小説家
ひたむきに人を恋する時、心は純粋な愛で満たされて何も恐れるものがなく、自分のすべて、生命すら投げ出してもかまわないと思うことがあります。若い時の恋は特にそうです。私欲を離れた純粹な恋の心は、神のように気高く尊いのです。

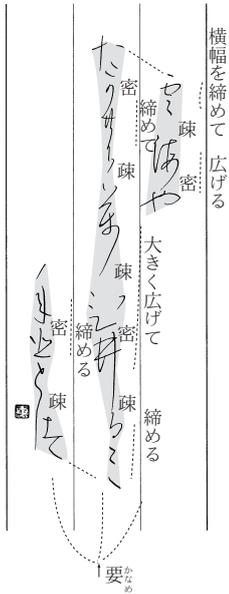
◆8月課題予告(行書)
すべての
偉大な人々は
謙虚である

★孤独は：(書体Ⅱ楷書)
ショーペンハウアー(一七六八〜一八〇六)
ドイツの哲学者
人の上に立つ人、能力のある人は、常に周りを人に囲まれ、一見華やかで孤独とは無縁のように思われがちですが、責任が重くなればなるほど、人間は孤独となるのです。一つの決断が大勢の人に影響を与えるような立場の間は、孤独に耐えていかなければならないのです。

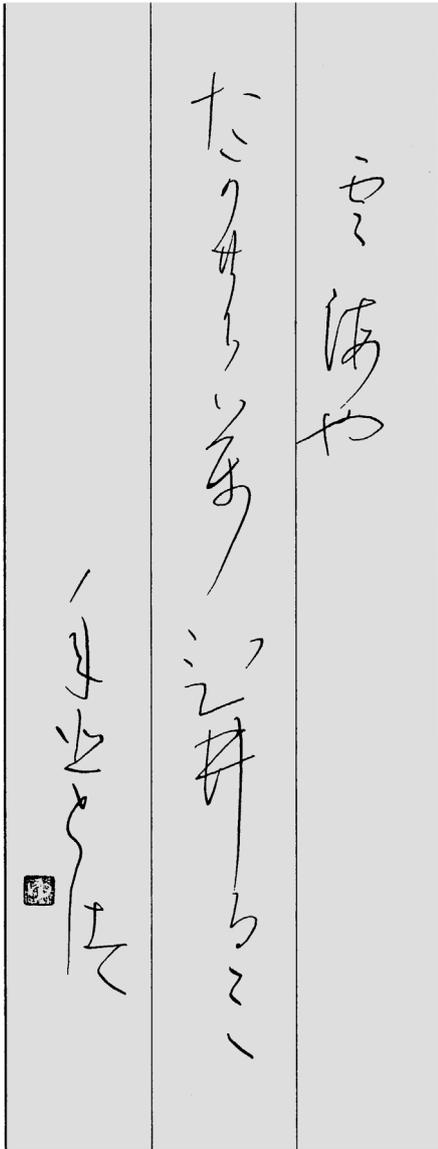
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



雲海や鷹の舞ひるる嶺ひとつ



おぎ 荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



雲海や鷹のまひるる嶺ひとつ



おぎ 荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

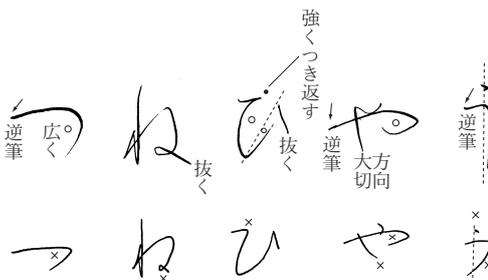
▷用紙=本会級位用紙

◆8月課題予告

乾坤にいのちひびかせ朝の蟬

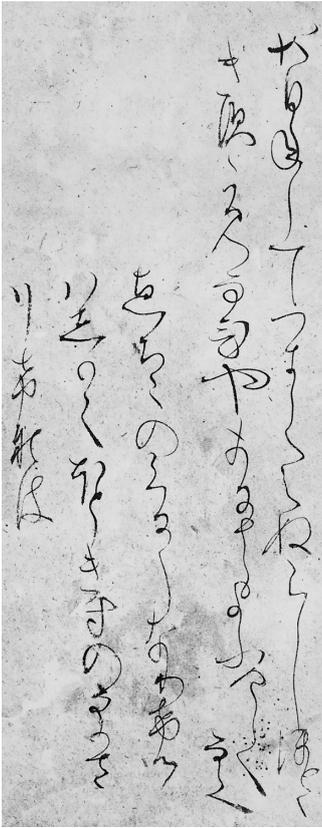
(水内鬼灯)

〔段位ワン・ヒント〕
私の作品づくりの基本は漸増漸減、疎密、線の太細等を考えながら作業します。複雑形を出来るだけ避けてシンプルに仕上げるように師は申します。私の線の美しさ強さ等まだまだ未熟であります。目下低速、低圧を心がけております。



雲海や鷹のまひるる嶺ひとつ (水原秋桜子)
〔句意〕我家から徒歩五分、雲海が眼下に広がります。遙か連山が浮かんで見えるのです。この美しい自然界にあって、暫しこの秋桜子の句を鑑賞しています。そして深呼吸二十回。
〔級位ワン・ヒント〕
かなは形の美しさ以上に線の美しさがあります。曲線はゆっくり、直線や払いは速くなります。ゆっくり書くと強く豊かで、反対に速い線は軽快な感じになります。これを交互に使っていると生き生きした作品になります。

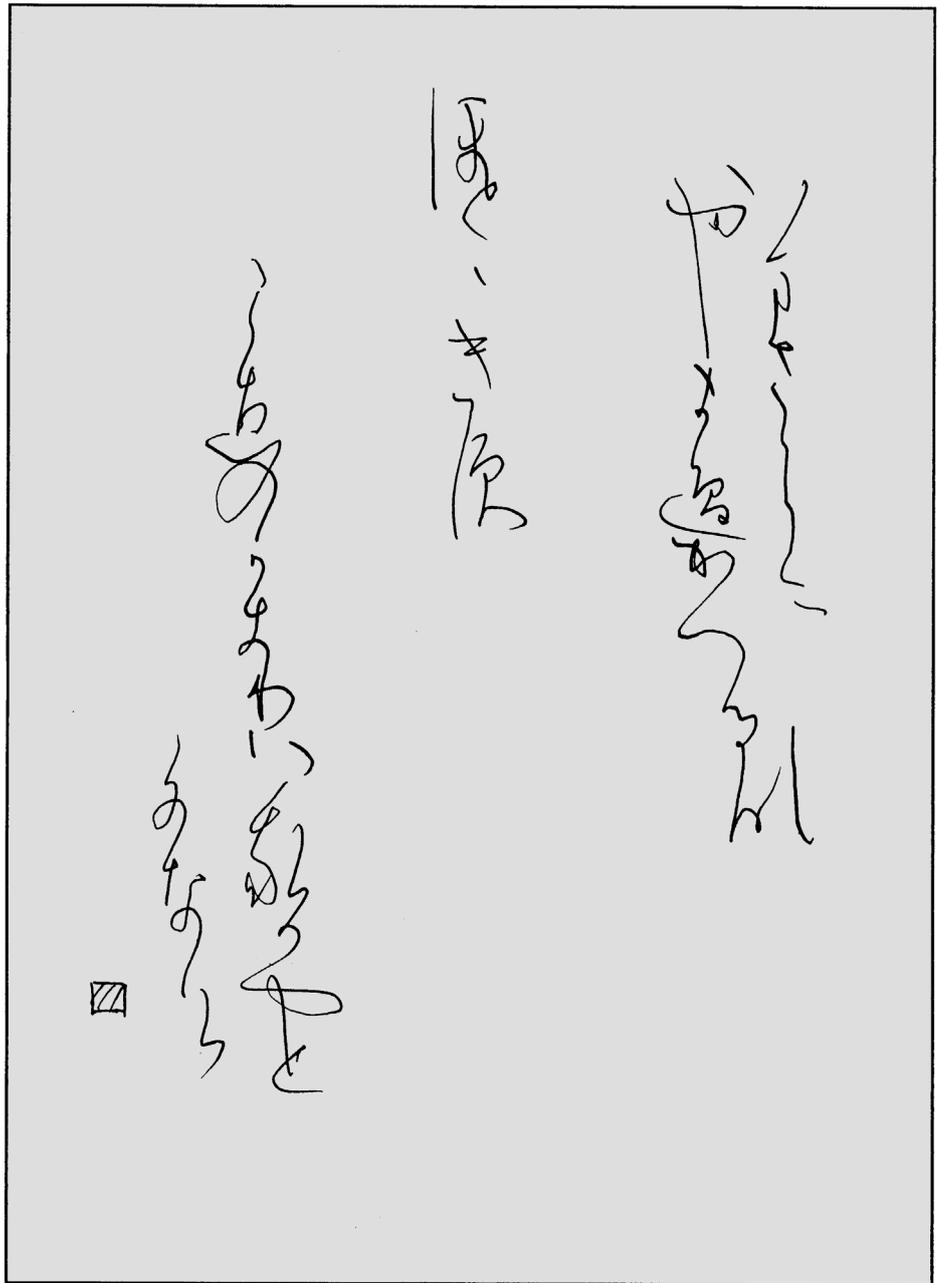
〔古筆参考〕



香紙切

たびね^日年
ぎす^須か^可み^見な^奈び^飛や^支ま^豆に^尔さ^尔よ^介ふ^介け^介て
ゑち^八ご^志の^可く^本に^尔ゝ^利なり^希ける^可□^{なく}
は^八しか^志かく^可ほと^本ゝ^尔ぎ^利す^希の^可な^可か^可ぎ^可
り^八け^志れば^可

締切り 七月二十五日(必着)



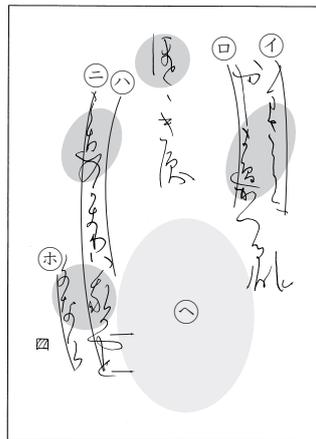
籙瀬舟香書

今^日さら^二に^一山^{やま}へ^よ帰^{かへ}る^な時^ね鳥^との^こか^えぎ^りは^ハわ^がや^どに^介鳴^なけ^介

〔歌意〕 ここまで季節が進んだのだ。時鳥よ、今さら山に帰るでない。声がかれぬかぎり、私の家で鳴きなさい。

〔出典〕 古今和歌集(新潮日本古典集成)

〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、②と③、②と④、それぞれ呼応。
- ⑤は大きな余白。
- 墨の動き大切。
- ④の方向は余白に向かう。

香紙切の清爽さ

香紙切は女性らしい清爽さを漂わせていて心を惹かれます。その造形の面白さを使いながら作品の景色をどのようにして作っていったらよいのか？

皆さんも考えてみて下さい。私は上の図版の一・二行目の「ほとゝぎす」の繊細・華麗・清爽な文字形をこよなく愛してポイントとして使ってみました。皆さんならどの様になるでしょうか。

◆8月課題予告

ひぐらしの鳴く山里の夕暮れは
風よりほかにとふ人もなし

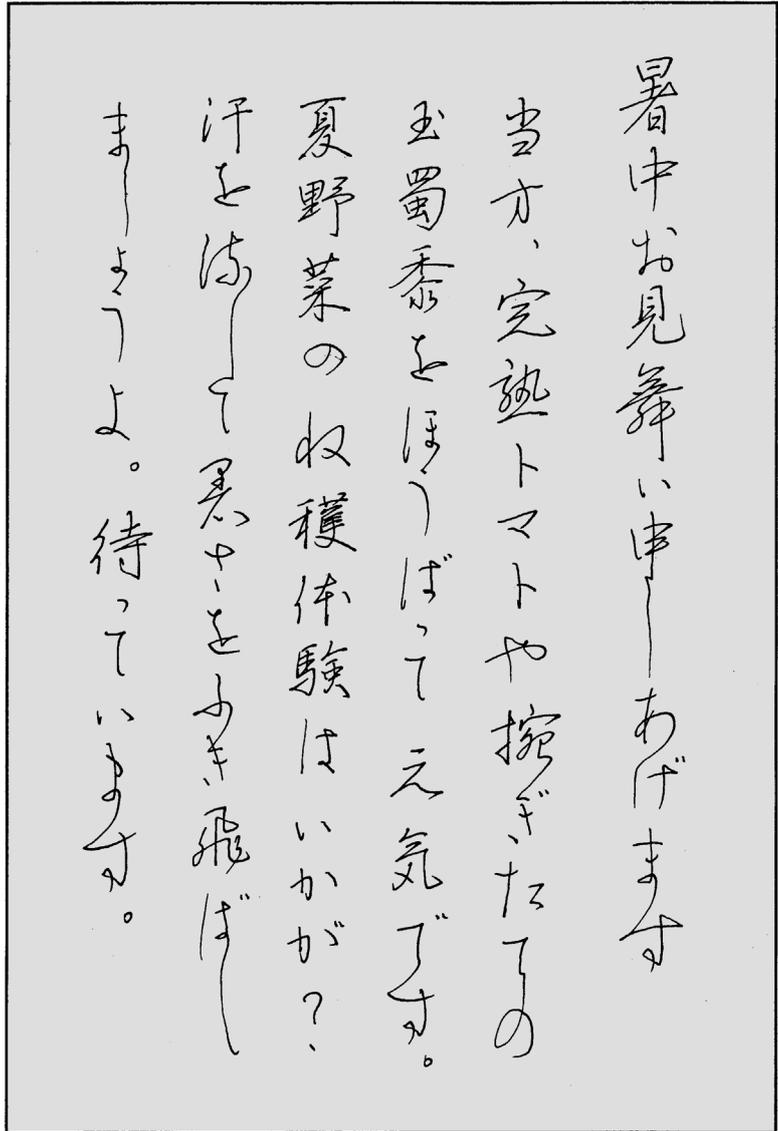
(古今和歌集)

締 切 り 7 月 25 日 (必 着)

自 由 課 題

- ◆ 今月は、文章も自由といたします。
- ◆ 皆さんのアイデアを生かして自由に創作して下さい。
- ◆ パラエティに富んだ、個性豊かな暑中見舞い状をお待ちしています。

暑中お見舞い申し上げます
 当方、完熟トマトや挽ぎたての玉蜀黍をほうばって元気です。
 夏野菜の収穫体験はいかが？汗を流して暑さをふき飛ばしましょうよ。待っています。



作 品 の 出 し 方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

お 岡 じ ま 嶋 け い 桂 せ ん 川 書

オリンピックの起源は、オリンピアの
 丘で催された奉納競技に始まる。

埼玉県桶川市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 7月25日 (必着)



允 文 允 武 經 綸

準初段から師範まで

奥村暢之臨



新入から1級まで (楷書)

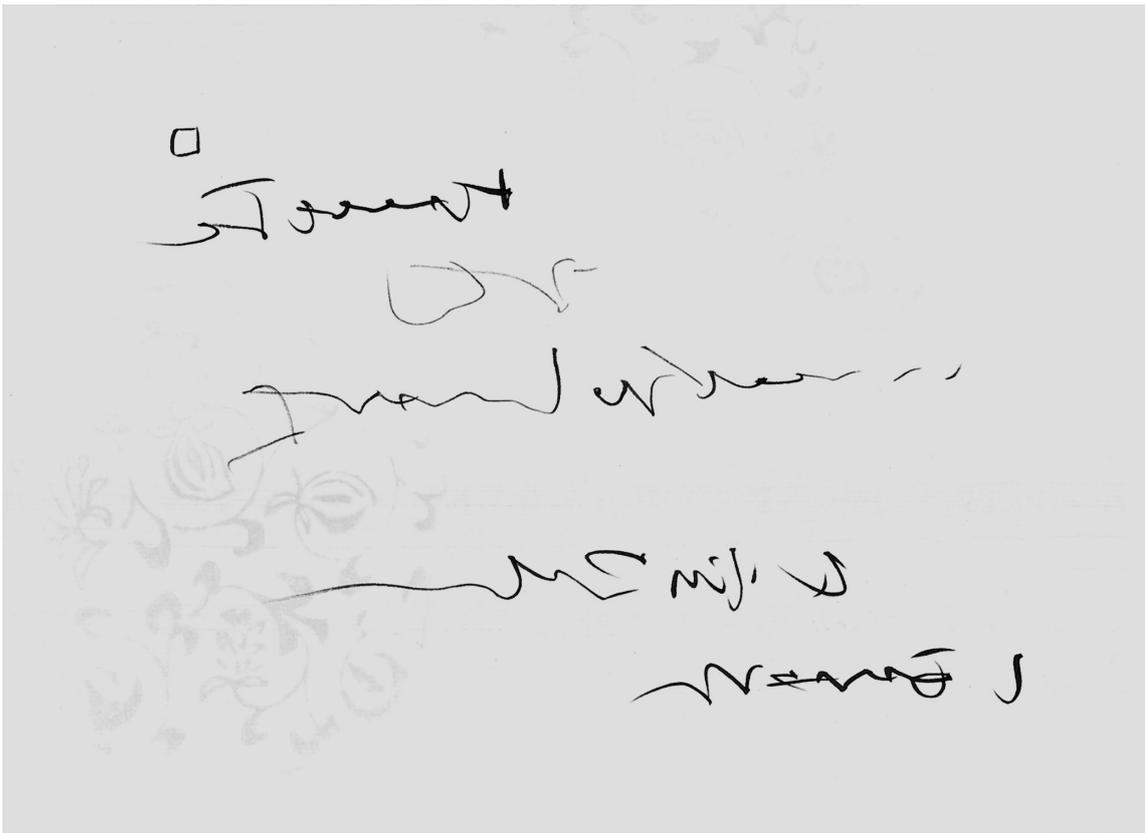
澤静雨書

【出典】孔子廟堂碑 (626～633) 【筆者】虞世南 (558～638)
 【読み】 允に文、允に武なり。經綸

【読み】夕雲深翠を渡る
 【大意】夕雲が深いみどりの山並の上を流れていく。

一般部毛筆かな課題

締切り 7月25日 (必着)

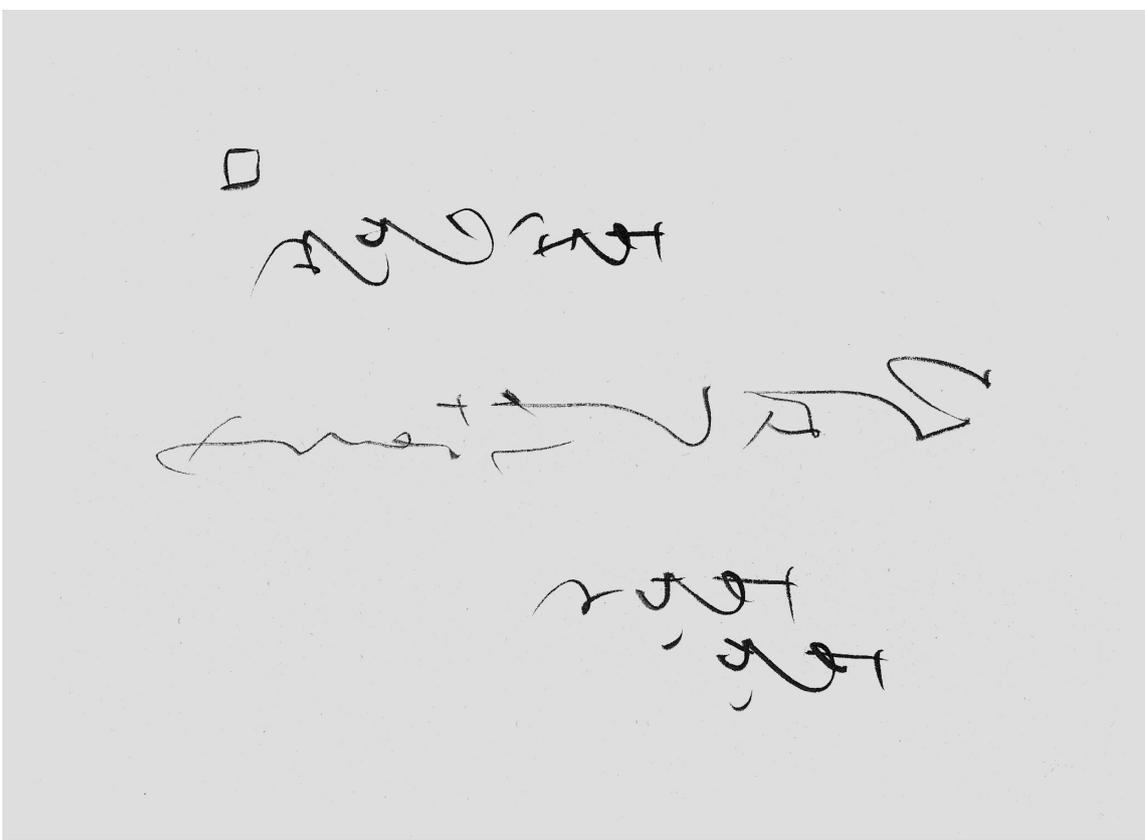


梅雨は連日夕空はくもり大波の山
筑波の山の大きかりけり

〔出典〕 古泉千樫

〔歌意〕 なががかかった梅雨が晴れて、久しぶりに仰ぐ夕空はいかにも広い。ここに立って見る筑波山は、まことにどっしりと雄大なことだ。

準初段から師範まで



あかあかと日は難面も秋の風

浅井機山先生書

〔出典〕 松尾芭蕉

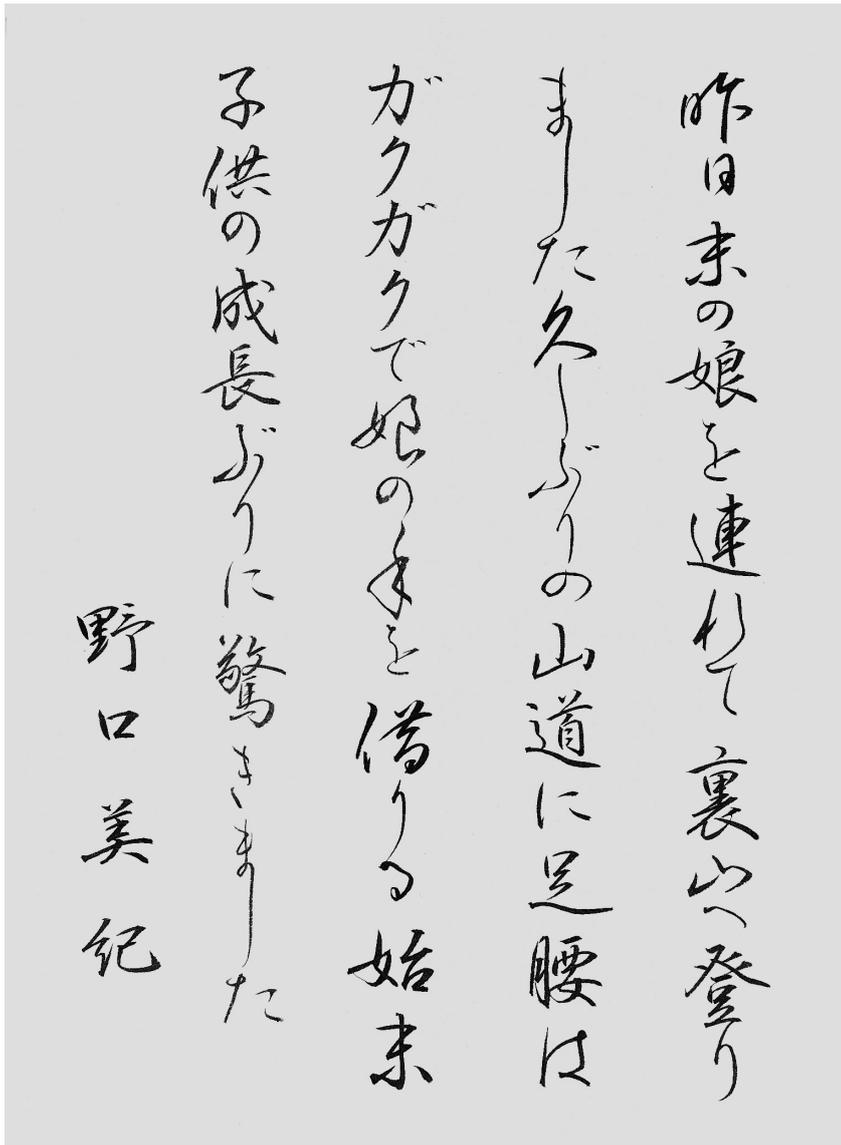
〔句意〕 「つれななし」は平気な、そ知らぬ風な、冷淡な、の意。残暑はまだ厳しいがさすがに吹く風にはやはり秋らしさを感じるというのである。

新入から1級まで

締切り 七月二十五日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)



新井清泉書



半紙(334mm×240mm)

書 兆 春 宮 大

涼聲度竹風如雨
碎影搖窓月在松
文微明
〔大意〕竹を吹きくる風は雨かとも思われて涼しく、松に懸る月は窓をてらし松影とともに碎け動くのである。
初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕創作への展開は角川書道字典から抜粋しました。各種字典を参考にしながら、自分の創意工夫で個性ある作品作りに挑戦してみましよう。



昨日 末の娘を連れて裏山へ登りました 久しぶりの山道に足腰はガクガクで娘の手を借りる始末 子供の成長ぶりに驚きました

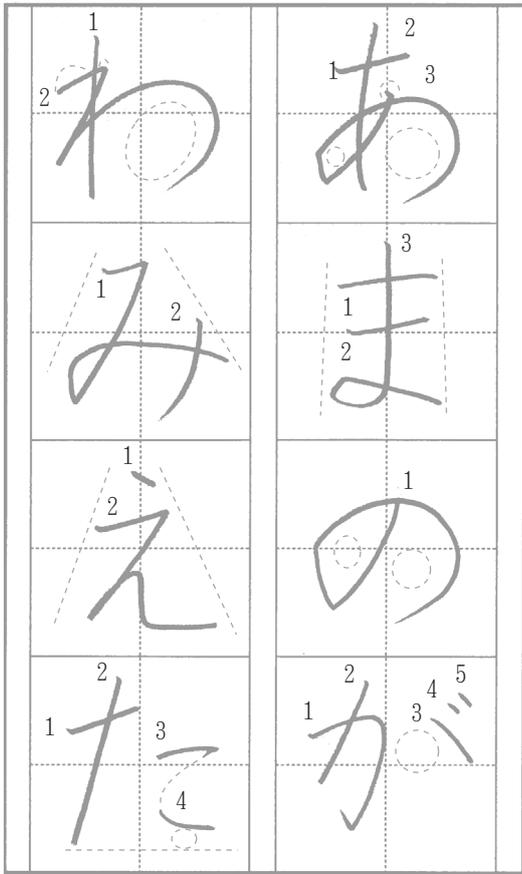
(自分の氏名)

● 印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

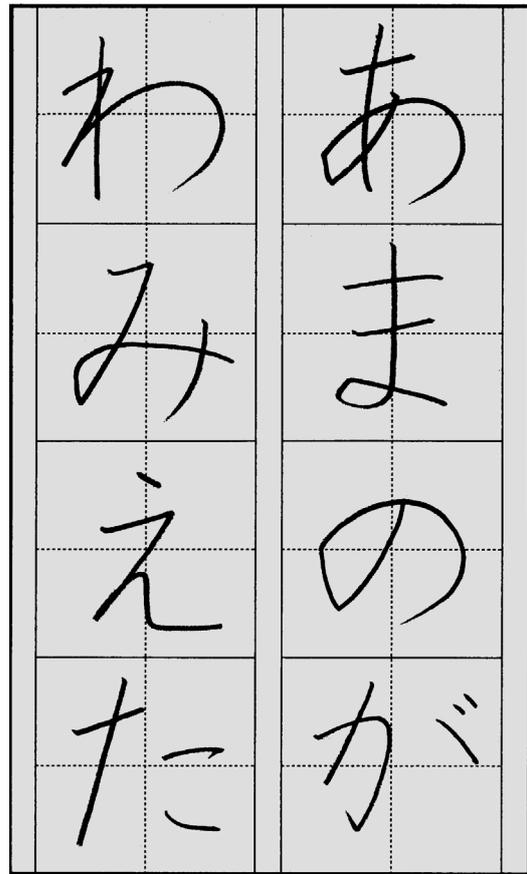
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐく〉自由(黒色にかざる)



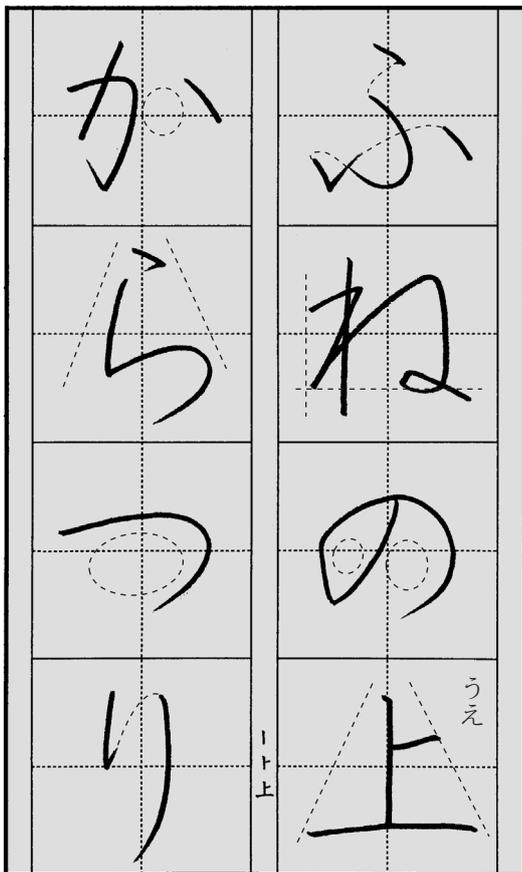
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



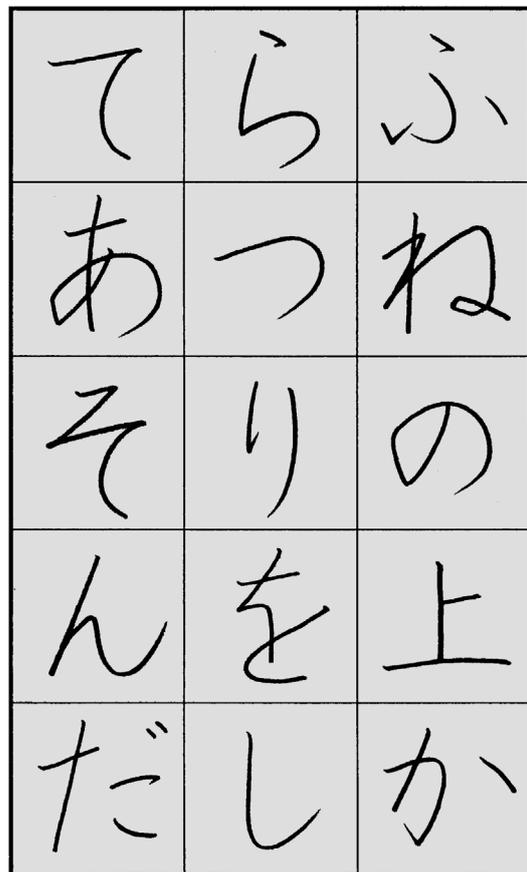
よ
う
年

小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐく〉自由(黒色にかぎる)

ル	ニツ
に	チュウ
通	プ
う	ー

新入 1級

ル	だ	日
に	ち	中
通	と	は
う	プ	お
よ	ー	友

準初段以上

小二年

準初段以上

画	シユク
立	ダイ
て	の
た	ケイ

新入 1級

画	る	夏
を	宿	休
立	題	み
て	の	に
た	計	す

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

ド 和和和根根根	根	コン
リヨク 力	力	キ 気
リヨク 力	力	じよ 強
リヨク 力	力	ク

新入1級

て	標	根
努力	に	気
力	向	強
す	か	く
る	つ	目

小四年

準初段以上

小四以上 尾郷翠光書

まも(る) 守	道	ドウ
アン 安	路	ロ
ゼン 全	標	ヒョウ
キ 気	識	シキ

解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

を	り	道
つ	安	路
け	全	標
よ	に	識
う	気	守

小五年

(全員)

小六年

故	親	自
郷	の	動
に	生	車
行	ま	で
く	れ	両

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

親	自
故	動
郷	車
行	両

自由(黒色に限る)

中一年 (行書)

練	か	夏
習	ら	休
に	部	み
励	活	も
む	の	朝

中二・三年 (行書)

ら	越	遠
近	し	く
況	た	へ
報	友	引
告	か	つ

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。



幼年す小二
年
玉たま
樹き
小しょう
華か
書





小三、小五年

水野香竹書

中二
報 近
告 況

小六
中二・三年
奥村暢之書

車 自
動

小六

リズムよく続ける
止め
練 近
ゆるやかに
軽く止め
動 車 朝
長く
大きく
報 朝
止め

中一
練 朝
習 白 の